

◎市長就任あいさつ

「日本一幸せな2万人のまち」を目指して

共に、前へ。

前田市政、
2期目のスタート

任期満了に伴う枕崎市長選挙が1月23日に執行され、無投票となり、前田祝成氏が再選しました。

枕崎市民の皆さまへ

枕崎市長 前田 祝成

こんにちは、前田祝成です。この度、1月23日の枕崎市長選挙で無投票となり、枕崎市長に再選されました。無投票ということで、市民の皆さまにはご自身の民意を示す投票という機会が失われ、心苦しいところもありますが、その分、4年前の1期目の当選時よりも重い責任を痛感しているところです。

これまでの4年間の市政運営については、市民の皆さまのご理解、ご協力と職員の働きに支えられ、私なりに力を注いできましたが、まだまだ取り組むべき課題は多く残されていると感じています。枕崎市の強みである産業の競争力を高めること、まちの未来を担う子どもたちの育成、そしてすべての市民の皆さまが住み慣れた地域でそれぞれが自分らしく暮らすことができ、暮らしに満足できる地域共生の社会づくりに向けて仕事を進めてきました。この2年間は、新型コロナウイルス感染症という世界中を覆ったパンデミックの中で市民の命と暮らしを守ることに奔走してきました。この流れはしばらく

はじめ、各種サービス業も人口減少の中ではありますが、さまざまなイベント、行事などを活用し、関係人口増加に取り組み、活性化させていきます。地域で生み出された再生可能エネルギーを地域内で消費することにより、脱炭素・経済・防災などの地域課題の解決につなげていく取り組みの基盤となる地域新電力の立ち上げに早急に取り組みます。地域新電力を通じて、再生可能エネルギーへの転換による脱炭素社会への貢献を果たすとともに、地場産業の持続可能性の確保を図り、これまで市外に流出していたエネルギー

コストを地域内にとどめることで、経済の地域内循環を創出します。また、公共施設等における分散型電源の強化による防災力の強化を図るなど、「エネルギーの地産地消」による地域活性化に取り組みます。

さらに、子育て支援、学校教育や医療、介護など、暮らしに直結する地域共生社会の実現に向けては、市民の皆さまの声に耳を傾け、職員一同で取り組みます。これから4年間、市民の皆さまと共に、「前へ。」進んでいきたいと思います。引き続き、よろしくお願

いいたします。



く続きそうですが、必ずポストコロナ(コロナ収束後)の時代はやってきます。そのポストコロナの社会の中で枕崎はどうあるべきか、そして10年先、20年先の枕崎はどうあるべきかをイメージして、市民の皆さまの幸せを確かなものとするべく「日本一幸せな2万人のまち」という目的に向かって、これからの4年間、2期目をスタートさせることとしています。

産業と水産業を基点とする水産加工業、茶、花き、果樹、畜産などの農業、芋焼酎などは、わが国の経済課題であるモノの価格低迷を解決できる高いポテンシャルを持つています。昨年制作した本市のPR動画は「丁寧・本物」という本市で産み出される製品の品質を表現したものです。それらの品質が正しく評価され、産業の付加価値を高める努力をさらに強く進めていくことは、私の2期目の重要な課題です。さらに地域内経済を活性化するための経済施策も重要です。飲食業や宿泊業、交通事業などコロナ禍で多大な影響を受けた産業を

再興させることとしています。

再興させることとしています。

2期目の主な取り組み

産業・経済

- 農林水産業の最適な将来像を描き、成長産業に育てます。
- 地域経済を支える枕崎ブランドの価値をさらに高めます。
- 地域内経済の好循環により、商業、観光、起業促進を活性化させ、地域経済に新たな流れをつくります。

子育て支援

- 中長期の小児医療、周産期医療の体制を整備します。
- 0歳児から2歳児までの保育料を低減します。
- 子どもたちのプログラミング能力向上の取り組みを推進します。

暮らし・コミュニティ

- 高血圧ゼロの街プロジェクトなど、健康寿命延伸に取り組みます。
- デマンド型(利用者の事前予約に応じて運行経路や運行スケジュールを決定する形態)の新しい地域公共交通の仕組みをつくります。
- スポーツ、芸術のまちとして、関係人口増加に取り組みます。
- 令和6年度の南薩地区新クリーンセンター(仮称)稼働に伴い、内鍋清掃センターをごみの運搬中継と資源ごみの中間処理を行うごみ処理中継施設として供用開始します。

